

記念物 ^{ひらくぼ}
【天然記念物】 平久保のヤエヤマシタン
Pterocalpus indicus Willdnw

指定年月日／1972（昭和 47）年 5 月 15 日
所在地／平久保 234-1



平久保集落の北西約 1 km の山麓に、アカギ、ウラジロアカメガシワ、リュウキュウハリギリ、モクタチバナ、シマグワ、トゲカズラなどに混ざって、ひと際大きくそびえ立つ 2 本のヤエヤマシタンが目止まる。ヤエヤマシタンは中国、インド、マレーシア、ポリネシアなどに分布するマメ科の高木で、国内では石垣島だけに自生し、分布の北限となっている。成木は春になると黄色い花が咲き、山麓の緑を明るく彩るが、冬には全ての葉を振り落とし枯木のようになる。

材は赤紫色を帯び、シタンよりも軽くてやわらかく、美しい縞模様をもち、家具材、建築材、細工物など、古くから様々な材料として用いられてきた。かつては豊富に生育していたヤエヤマシタンだが乱伐され、明治初期には自生の樹はほぼ姿を消してしまった。

樹齢 100～150 年になる平久保のヤエヤマシタンだが、近年では、イカ釣り用の疑似餌の材料として幹や枝が切り取られる人為的被害や、シロアリやヤエヤマシタン固有の害虫であるシタンヒメヨコバイの被害により、樹勢の衰えが懸念されている。

記念物 ^{よねはら} ^{ぐんらく}
【天然記念物】 米原のヤエヤマヤシ群落
Satakentia liukiensis (Hatusima) H. E. Moore

指定年月日／1972（昭和 47）年 5 月 15 日
所在地／椋海大田山林



ヤエヤマヤシは、世界中で石垣島と西表島だけに自生する一属一種のヤシ科植物である。かつては小笠原に自生するノヤシと同種と考えられ、「米原のノヤシ」として、琉球政府時代の天然記念物に指定されていた。しかし、1967（昭和 42）年に H. E. Moore 氏により別種とされ、今日にいたっている。樹高は 20～25m、胸高直径は 20～30 cm と見事な樹勢を示す。

米原地区の山手、椋海於茂登岳の山麓部が自生地となっており、ヤエヤマヤシだけが高木層に突出したヤシ林特有の相観をしている。林内にはヤエヤマヤシの稚樹のほか、ショウベンノキ、リュウキュウガキ、ヤンバルアカメガシワ、アカテツ、ホソバムクイヌビワ、ギランイヌビワ、アワダンなどが植生している。

市指定天然記念物のイシガキニイニがヤエヤマヤシ群落内に生息しており、2002（平成 14）年にイシガキニイニが種の保存法による国内希少種に指定され、群落内に生息保護区・立入制限地区が制定された。